



はてしなく続くボルネオのジャングルに挑むキャメル・カーのコンボイ。困難な泥ねいや倒木に遮られ、しばしば立ち往生を余儀なくされた。

最悪の状況ながら堂々の2位

■本物のジャングルに各チーム四苦八苦

ボルネオ島の東岸にある、人口13万人の町バリクパパンの夕方、インドネシアの東カリマンタン州知事の振り降ろすスターティング・フラッグによって、キャメル・トロフィー'85は始まった。まずは、この町を横切る24kmと40~50kmの夜間走行である。

翌日から本格的なジャングル走行となる。そしてスペシャル・タスク(課題)も開始された。これはひどい泥ねいの道を走るもので、横転したりクラッチを焼いたりトラブルが続出し、ほとんどのチームが通過するのに90分~4時間もかかっていた。しかし、ブラジルチームはわずか49分で走り抜けた。彼らはひとりが運転し、もうひとりは車の先で水先案内人よろしく歩いて先導し、ゆっくり確実に走ったことで結果的に最速の記録となったのだ。まさにキャメトロ精神の実践が功を奏したと言えよう。ちなみにこの日正午の気温は、38.5度を記録していた。

■道がない! 空前の空輸作戦決行

これに続く日々は、キャメル・トロフィー史上最悪の状態だった。ジャングルの奥に進むにつれ、横転、転覆、滑落などのトラブルが続出した。2日で10.5kmしか進めない日もあった。このような悪条件のもとで、日本チーム1の高木/宇津田両選手はスペシャル・タスクにおいて、ドイツチームとトップ争いを演じていた。道を作り、橋を作りながら進んだが、やがて橋など作れないほど大きな谷に遭遇してしまった。ここは35~40度の急斜面を転がるように下り、対岸にウインチで這い上がることで切り抜けた。こんな苦勞を繰り返しながら進んだが、突然道が消えてしまう事態に陥った。

ヘリコプターでルート探索する間、選手たちはジャングルの休日を楽しんでいた。やがて走破困難という判断が下り、大型ヘリによる空輸作戦が展開されることになった。しかし泥まみれのランドローバーは、ヘリの積載能力を超える重さになっていた。そこで解体命令が下り、ドアや座席、バッテ



1985 ボルネオ本戦(1985.4.16.~28.)



ボルネオでは、キャメル・トロフィー史上初のヘリコプターによるコンボイの空輸が行われた。



これもスペシャル・タスク中のひとコマ。



ウインチも“前進手段”として使われる。

リーなどが外されることになった。またほかに2機のヘリコプターが動員され、人員や装備の輸送をすることになった。

湿度90パーセントを超えるジャングルは、じっとしているだけでも辛い。空まで飛んで進んだ一行の前に、今度は長さ約250mにも及ぶ豪雨後の巨大プールが出現した。ここでもブラジルチームの1台が見事に渡渉に成功したが、他は全てウインチのお世話になった。そしてようやく、出発してから11日にバリクパパンに戻ってきたのである。

当初1,000(1,600km)マイルの予定が、わずか530kmしか走破できなかったことになるが、それほど過酷な条件であったわけだ。この間に9つのスペシャル・タスクが行われたが、日本チーム1は初出場ながら2位に食い込むという素晴らしい成績を収めることになった。いや、惜しくも1位を逃した... と言うべき差で2位になったのである。



突然道が川になる。それでもコンボイは、引き返すのではなく先へ進むのだ。



たとえ転倒しようと、ゴールまでたどり着かねばならない。

——日本チーム・コーディネーター長島康紘かく語りき——

全てが初チャレンジ

わけも分からず、とにかく行った1回目。それぞれのチームがユニフォームをバリッと揃えていてカッコ良かったのに、我々は知らないもんだから、日本チームはバラバラの格好だね。でも、テレビ局を連れて行ったのは、あの時の日本チームが初めて。「湿気でVTRはダメ」と言われていたのに、結局、撮れちゃった。タスクは、タイムトライアルが多かったな。全車、雨明けで苦労したようだ。1日で200mしか進めない日もあった。何も分からなかったけれど、選手は特に個性的な人が多かったし、結果的には2位、10位と善戦した。テーマどおり、まさにチャレンジの1回目だったね。

1985 ボルネオ(リザルト)

1 Germany I	Heinz Kallin Bernd Strohdach
2 Japan I	Kunio Takagi Fukumu Uzuta
3 Switzerland I	Bruno Camenzind Urs Beer
4 Belgium I	Philippe Goblet Hubert Callens
5 Holland I	Arie Plugers Will Walters
6 Belgium II	Jean-Claude Decraene Wilfried Van Der Kalen
7 Holland II	Jouke Eikelboom Gerrit Oudenampsen
8 Spain I	Javier Casasus Latorre Jaume Masferrer Ordis
9 Italy I	Flavio Dematteis Stefano Gasi
10 Japan II	Hiroataka Shimamura Gentaro Izumitani
11 Switzerland II	Werner Ehrsam Werner Paul Buhner
12 Brazil I	Osmar Eugenio Kretschek Luiz Aylton Casertani
13 Italy II	Robert Ive Beppe Gualini
★14 Brazil II	Carlos Probst Tito Rosenberg
15 Canary Island I	Fernando Rebull Jose Antonio Reyes
16 Germany II	Georg Michael Diehl Juergen Meinig

★印はチーム・スピリット賞